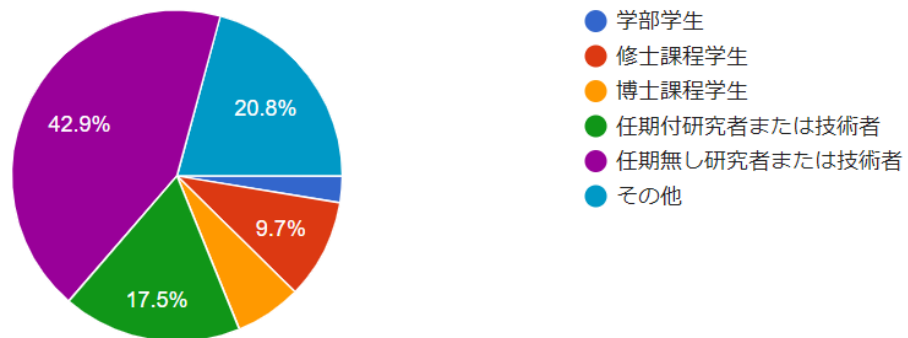


日本気象学会 2020 年度秋季大会アンケート結果のまとめ 講演企画委員会

オンライン大会となりました 2020 年度秋季大会について行ったアンケートの結果を報告します。アンケートは 10 月 28 日に会員メーリングリストに告知し、大会参加者にかぎらず全会員を対象に実施しました。その結果、計 154 名から回答をいただきました。以下に、全ての質問と、回答のまとめを掲載します。選択式のものにはグラフで、自由記述のものは意見の傾向や、多かった意見を記載しました。なお、アンケート呼びかけのメールでお知らせしたように、アンケートで頂いた全てのご意見を、理事会、講演企画委員会、各支部、今大会および今後の大会の実行委員会（立ち上げ済みのもの）で共有しました。ご協力ありがとうございました。自由記述の質問への回答のまとめにおいて、「」で困ったものは入力引用ですが、基本的に抜粋で、語尾の整理等を行っています。また、自由記述で別の設問への回答になっているもののいくつかは、そちらに移しました。

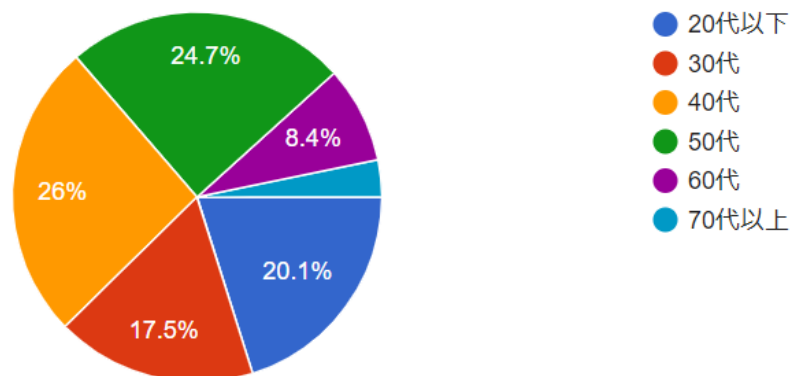
身分

154 件の回答



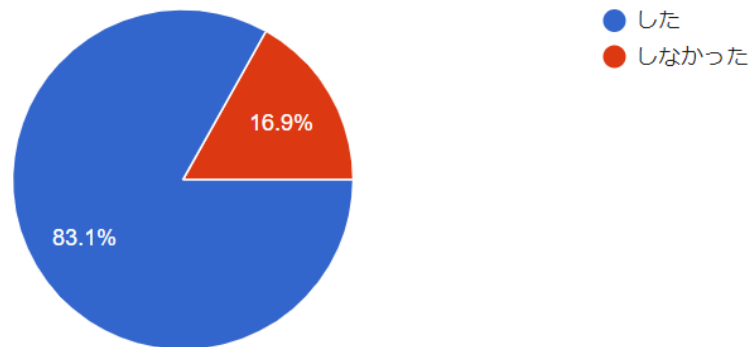
年齢

154 件の回答



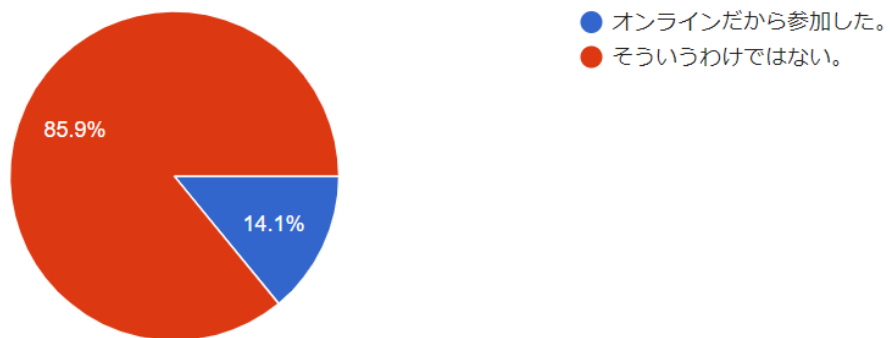
本大会に参加しましたか。

154 件の回答



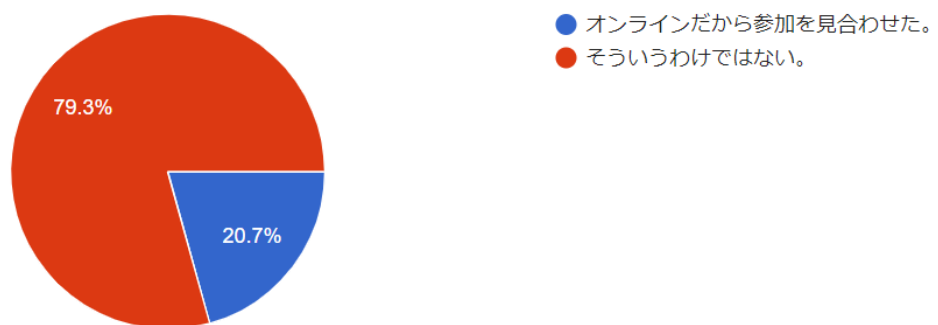
参加した方に伺います。以下のうち当てはまるものを選んでください。

128 件の回答



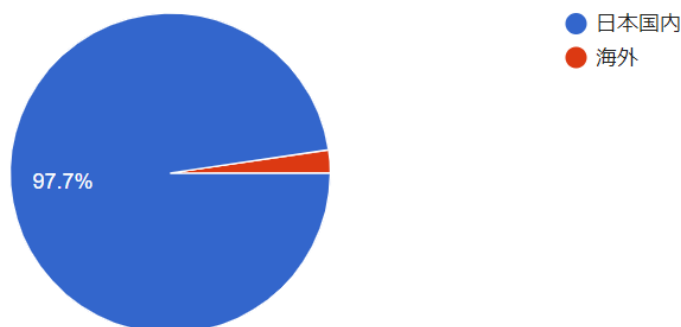
参加しなかったかたに伺います。以下のうち当てはまるものを選んでください。

29 件の回答



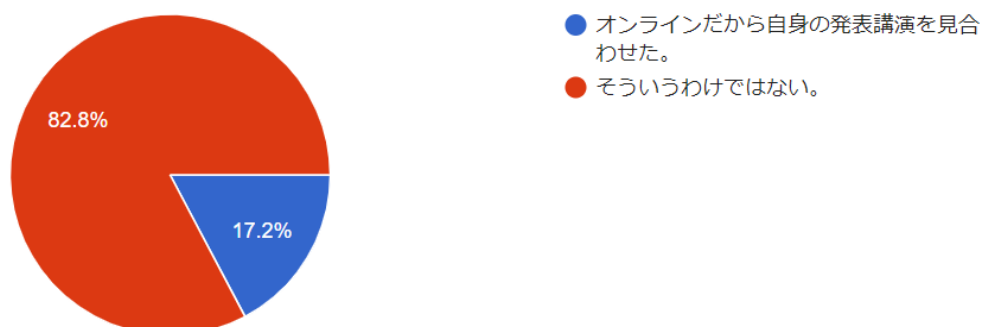
参加した方に伺います。どこから参加（接続）しましたか。

128 件の回答



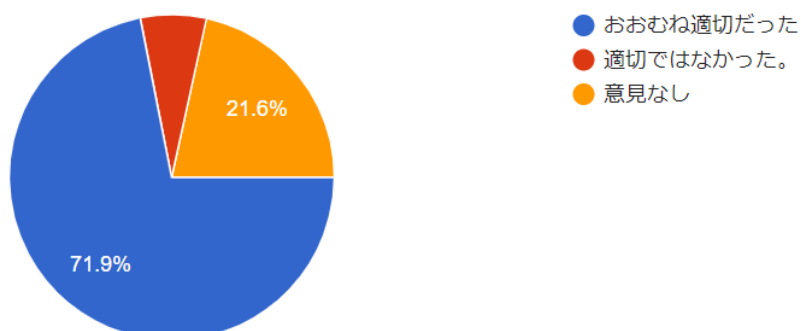
聴講のみで参加した方に伺います。以下のうち当てはまるものを選んでください。

58 件の回答



アンケートにお答えのすべての方に、日程および構成について伺います。今回、会期を7日間とり、最初の2日間と最後の一日をオンデマンド講演日、間の4日間をコアとして、各賞関係の時間、口頭発表の時間やオンデマンドコアタイムなどをとりました。この日程のとり方、内容構成はいかがでしたか。（なお、講演方式や一件当たりの講演時間等については改めて別の質問で伺います。）

153 件の回答



(前問をうけて) 今回の日程のとり方と構成について、ご意見をお寄せください。

回答 41 件。

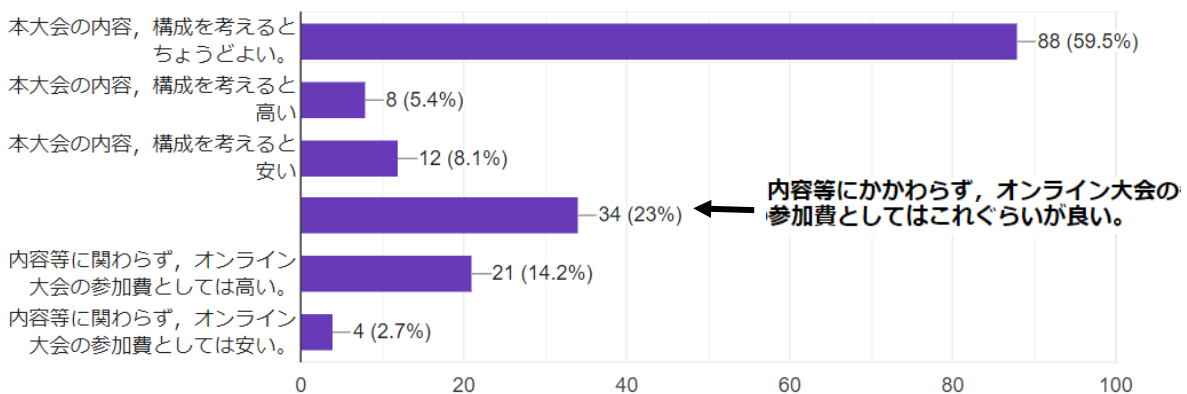
前問で「おおむね適切だった」が7割だったことを反映して、評価する意見が多くありました。個別には次のような意見がありました(各論は多様で、相反する意見も多くありました)。「前後にオンデマンドをゆっくり見られる日程は良かった」、「余裕があってよかった」、「口頭発表のある時は時間的に余裕がないので、最初の2日間と最後の1日のオンデマンド講演日はとてもよい構成」、「オンデマンド講演の方は前後の期間を長く取っても良いのではないか」、「コアタイムと口頭発表だけで良いのでは」、「日程が長すぎる」、「最初の2日間はいらぬと思う」、「土日が入って参加しやすくなった」、「土日は避けるべき」、「最初の2日間がオンデマンド講演日なのは接続に慣れる期間として重要だった」、「1日の中で、口頭発表とオンデマンド発表を組み合わせるのが、どちらかだけよりも疲れなくてよい」、「最後の1日のオンデマンド講演日は、オンデマンド資料を引き続き公開する場合には不要」、「オンデマンドのlightning talkをしてはどうか」、「口頭発表やオンデマンドコアタイムの間や終了後に休憩時間を組んでおくと、休憩室や雑談スペースの利用者が増えると感じた」、など。

また、最初の自由記述設問だったからか、日程のとり方以外についての意見がいくつかありました:「セッション間移動が容易だった」、「最初の日(10/25)はどこからアクセスするかわからず手間取ったが、すぐにサイトが改善された」、「委員各位には大変な御労力であったろうと拝察します。直前になってからG-Suiteサイトの使い方に困って質問したところ、深夜早朝に御返事を頂き、心から感謝しています」、「学会はやはり対面の発表・聴講と質疑が望ましい」、など。

本大会の参加費(会員参加費3500円)について伺います。当てはまるものにチェックを入れてください(複数選択可)。



148 件の回答



(前問をうけて) 参加費に関するご意見をお寄せ下さい。

回答 42 件。

前問で、ちょうどいいが多かったからか、意見は高い、安いの両面から寄せられました。例:「1000~2000円くらいが妥当」、「もう少し安く」、「現地開催より安くあるべき」、「できれば無料に」、「オンライン方式としては十分充実して値段相応」、「大変快適であった。それを思うともっと高額で良い」、「事

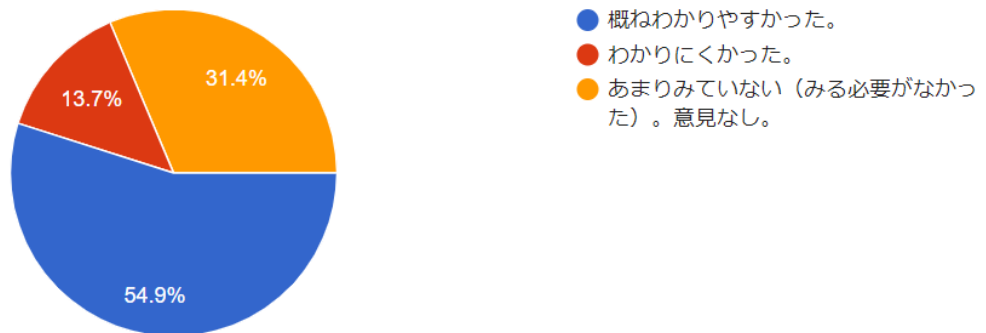
事務局の手間を考えると妥当だと思う」、「オンラインだからと言って安くする必要はない。大会実行委員の負担が減るよう、外注できるものは外注すると良い」、「気象学会が経済的に困っているなら、もっと高くてもいい」、「今回はかなり手弁当・手作りのところが多く、この程度で済んだと思う。持続可能な方法をご検討ください」、「経費の内訳が知りたい」。

他に、「経費の内訳が知りたい」、「運営費等が分からないので何とも言えない」、「形態によらずに同じでよい」、「公費で支出できる人と私費の人で参加費を変えるべき」、などがありました。

今大会の説明をwebに「日本気象学会2020年度秋季大会説明書」

<https://sites.google.com/metsoc.or.jp/atm2020/instruction>として掲載しました。これについて伺います。

153 件の回答



（前問をうけて）「日本気象学会 2020 年度秋季大会説明書」

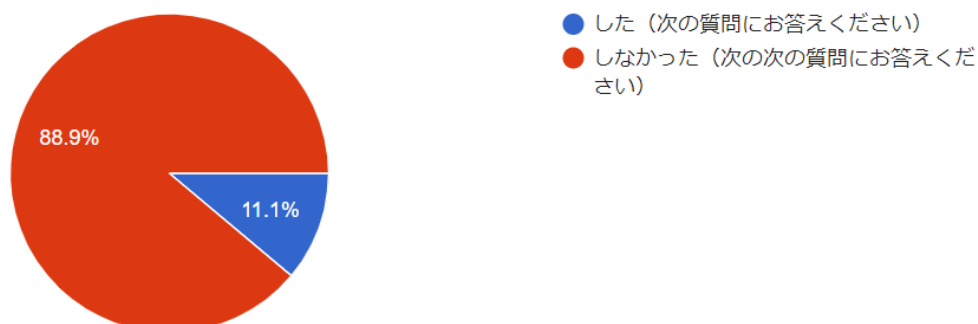
<https://sites.google.com/metsoc.or.jp/atm2020/instruction> について、ご意見をお寄せください。

回答 32 件

「オンデマンド講演」の意味がわからなかったという声がありました。他に、具体的なお指摘がいろいろありましたが、運営改善のための各論になりますので、この報告では割愛します。

口頭発表された方に伺います。今回学会前に複数回に分けてオンライン講演のリハーサルが行われていましたが、オンラインリハーサルに参加しましたか？

54 件の回答



(前問をうけて) 口頭発表リハーサルに参加した方に伺います。感想をお知らせください(次回以降に望むことなども)。

回答 5 件

この報告では割愛します。

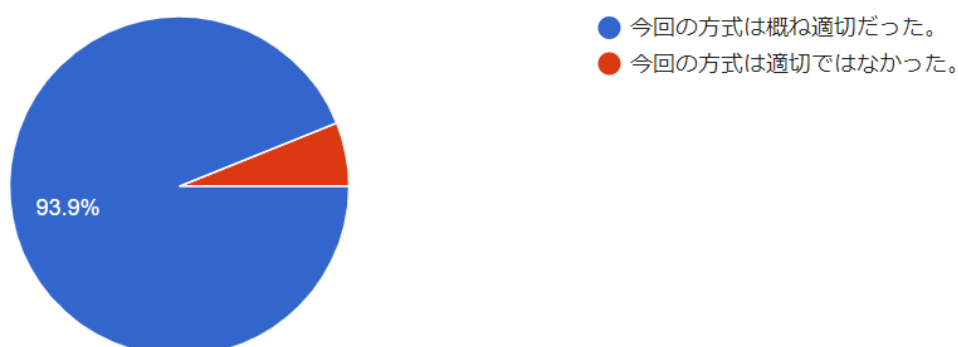
(前々問をうけて) 口頭発表された方で、リハーサルに参加されなかった方に伺います。差し支えなければ理由をお知らせください(知らなかった、日程があわなかったなど)。

回答 32 件

「知らなかった」、「必要なかった」、「日程があわなかった」、「気づいたら終わっていた」などでした。

オンデマンド講演を視聴された方に伺います(参加者の立場でお答えください)。

115 件の回答



(前問をうけて) オンデマンド講演の方式についてのご意見をお知らせください。

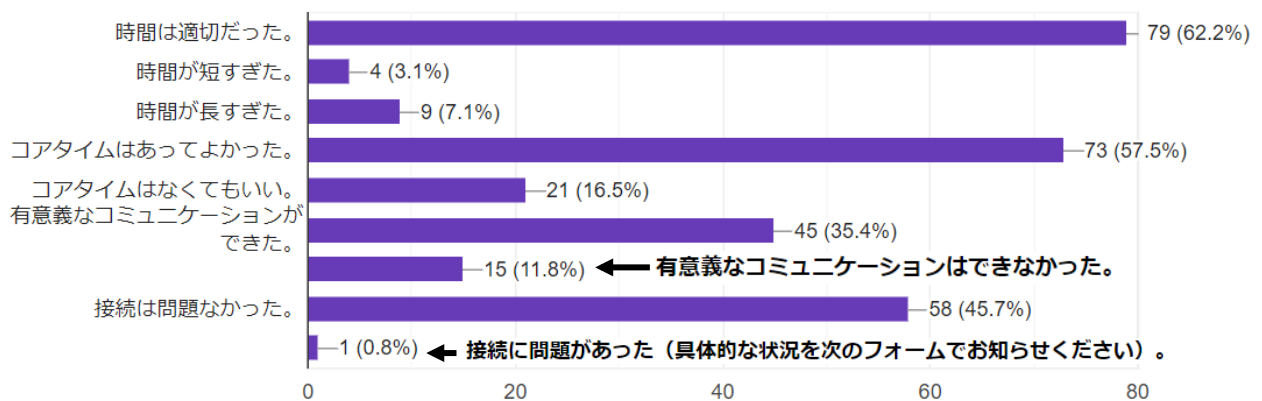
回答 46 件

以下のような意見が寄せられました。「JpGU の iPoster よりも自由度が高く、コメントによる議論

や個々の Meet や Zoom による議論もやりやすかった」, 「Zoom 等があると直接話ができ大変有益だった」, 「オンデマンドでどうすればインタラクティブにできるか、事前にはわかりにくかった」, 「資料を大会期間中ずっと見ることができるのは良い」, 「アップロードから公開、コメントの授受などもスムーズに行えた」, 「Google ドライブを使うことに抵抗がある。著作権の問題はどうだったのか?」, 「今以上のはむずかしいのでは?」, 「アクセス方法や質疑応答方法が分かりにくい」, 「従来のポスター発表よりも、時間の自由度があり、他の人の質問も見ることができて良かった」, 「大変快適であった」, 「zoom アドレスを公開して待機する発表者がせめて過半数になれば良い」, 「発表者以外の方と意見交換ができなかった」, 「資料にコメントしたり, zoom に入ったりするのは若輩者にはハードルが高く感じられた」, 「接続が学会案内ページからすぐにわからなくて戸惑った」, 「プログラムを見るのに苦労した」, 「チラ見でどんな内容なのかがおむねわかるようになっていれば、訪問する立場としてはありがたい(資料の工夫により)」, 「30秒トークのようなのがあってもいいかも」, 「発表者側の負担感が気になる」など。他にシステムに関する具体的な改善意見がいくつかありました。

全ての方々に、オンデマンド発表コアタイムについて伺います。あてはまるものをチェックしてください(複数選択可)。

127 件の回答



(前問をうけて) オンデマンド大会コアタイムについて、ご意見をお寄せください(接続トラブルなどについても)。

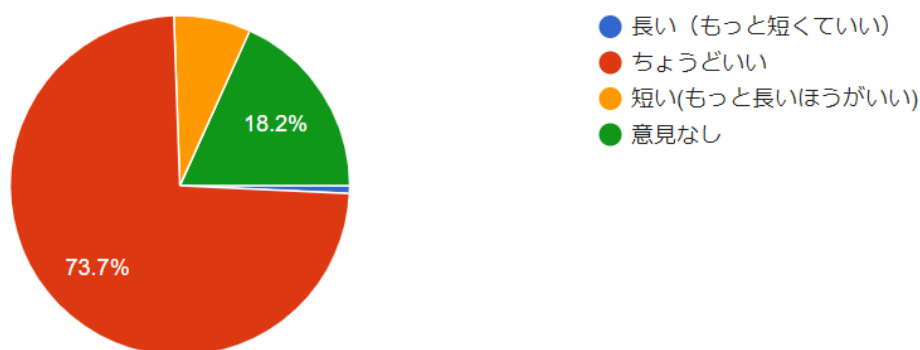
回答 40 件

問題なかった, よかった, 特にないなどの意見がそれぞれ複数あり, 他に以下のような意見がありました(やはり各論には, 相反するものがあります)。「細かく時間を分けてコアタイムを作って欲しい」, 「各人でコアタイムをもうければいい」, 「有意義なコミュニケーションができたのは、自分で Zoom を立ち上げてコアタイム中に顔を見て議論ができたから。資料のコメントのみでは、物足りなかったと思う」, 「初参加で、しかも名前も知られていない私はなかなか質問をもらえないので戸惑った」, 「1日当たり AM 口頭、PM1 オンデマンド (2H)、PM2 口頭というような組みあわせがより充実するような気がする」, 「オンデマンドでどうすればインタラクティブにできるか、事前にはわかりにくかった」, 「コアタイムが無いと、いつ議論の時間を設定するか迷うのでありがたかった」, 「ビデオ会議に不慣れで設定しなかったので、コミュニケーションについては通常の学会に劣った」, 「コアタイムの区分が不明」, 「コアタイム

の待機時間および個人 zoom への接続方法の告知が統一されていなかった（スケジュール表のリストに記載がなく、オンデマンド講演スライドにのみ記載があるなど）、「コアタイムを設定しても、オンデマンドの発表に質問をする人自体が少ないように思えた」、「コアタイムはなくてもよい」、「コアタイムに限らないが、質問に対する返答がメールでも確認できる点良かった」、「今回は完璧だった」、「オンデマンドのコアタイムが口頭発表より前だったが、口頭発表の後にしてもらった方がよかったですと思う」

口頭発表の一件当たりの時間について

137 件の回答



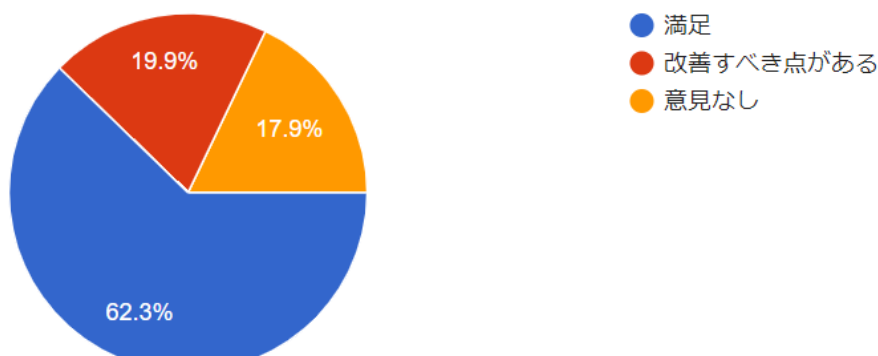
口頭発表についてご意見をお寄せください(時間の取り方, 発表方式, プログラム, 接続状況等)。

回答 37 件

「良かった」という旨の自由記述が多数ありました。発表時間の管理に関しては、様々な意見や改善案が寄せられました。他に、以下のような意見がありました。「パラレルセッション間で切り替えしながら聴きたいので、セッションの時間的進行をなるべく統一してほしい」、「Zoom を使用したことが非常に良かった（多くの人が操作に慣れているものと想像しますし、動作も非常に安定していた）」、「ミュートにすると自分で解除できず、返事ができないということがあった」、「口頭発表の時間は限られているため、オンデマンド発表でも質疑ができたのが良かった」、「各発表の開始終了時刻をプログラム上で明記してほしい」、「もう少し口頭発表の件数を増やしてもらえれば」（同様な趣旨のコメントが複数）、「すぐに会場を移れるのはよかった（だからこそ、発表時間枠をあわせてほしかった）」、「Zoom の使い方マニュアルが早い段階であれば助かる」、「一件あたりを短くして、多くの人に口頭発表の機会を作り、詳細の議論は on demand でよい」など。

今大会全般について

151 件の回答



（前問をうけて）今大会全般に関し、ご意見をお寄せください。

回答 63 件

ご回答のかなりの割合が、高く評価する声や運営へのねぎらいでした（例：「大変な状況の中、気象学会を開催いただきありがとうございました」、「スムーズに参加できました」、「参加方法の案内や、大会プログラムが非常に分かりやすく、特に戸惑うこともありませんでした。」、「申し分のない進行でした」、「短い準備期間にも関わらず非常に良いものを準備されており、素晴らしいと思います」、「JpGU オンラインなどの経験も生かしてか、全体的にスムーズに（雰囲気が悪くなることもなく）研究議論ができ、非常に良かったと思います。」、「入念に準備いただいたおかげで有意義な大会であった」、「委員各位の御尽力に深謝します」、「大会運営委員会の方々、準備お疲れ様でした。初めてのことなので大変だったと思います」、「改善すべき点は多いがそれなりに大きな満足が得られた」、「運営さんの対応が迅速で非常に助かりました」、「オンライン大会としては予想よりはるかによくて本当に満足でした。運営関係者の方はたいへんだったと思います。」、「急なオンライン対応にも拘わらず、素晴らしい大会でした」、「参加前はオンライン開催に不安があったが、蓋を開けてみると思ったよりも良かった」、「オンデマンド講演で口頭発表者のものも含めた資料を何度も見返せるのは非常に良かった」）。

他に、次のようなご意見が寄せられました（中でも、交流が難しかったという意見が多数ありました）。「ポスター発表の質疑方法はもう少し工夫できるかもしれない」、「コーヒープレイクがないので、休憩室などが活かされていないかった。Remo は、話している内容が分からず非常に入りにくい」、「今回としては上々の出来ですが、会場開催の代わりにはならない気がしました。」、「皆様不慣れのせい、議論がやや滞りがちに思えました」、「オンラインでは、顔を合わせた交流・議論の場が極めて限定される。やはり現地開催すべきだと思う」、「雑談（研究の質問を含む）するスペースの有効活用が求められる」、「一方雑談しづらいのは課題」、「会場費や参加のための旅行の旅費や時間の節約になる」、「雑談スペースと休憩室の二重運用になっていた（非公式な企画なので管轄外かもしれないが）」、「仮想的なロビーが用意されていたが、個人的には入りづらく感じた」、「雑談スペースや休憩室の用意はとてもよい取り組みだと思った」、「オンデマンド講演の形式で多少改善の余地がある（気軽に立ち寄りやすくする意味で）」、「学生の発表、コメントが少ないように感じた」、「アカウントの管理が面倒な点は何とかすべき」、「都合により参加できなかったが、次回はぜひ参加したい」、「改善すべき点ばかりが目立つのは仕方の無いこと」、「近傍の若手（学生）会員からは、やはり、学術的な出会いの不足について不満が聞かれました」、「次回はぜひとも対面形式（従来方法）を希望します」、「リモート形式の方が資料が見やすく、旅費や旅行の時間や手間もかからず、メリットが多い気がする」。

今後の気象学会の大会に関するご意見をお寄せください。

回答 66 件

順不同で、各意見から主な箇所を抜粋します（謝意のみの回答や今後へのご意見でない回答は除く）。「普段あまり最先端の気象学に触れる機会がないため、貴重な機会となりました」、「今後、対面での開催が可能となった場合でも、発表スライド（ポスター）のオンデマンド配信は存続させて欲しい（口頭発

表では発表ペースが早く、内容を理解できないまま終わってしまうことも多いので)、 「基本的にオンデマンド講演主体にして、口頭をしたい人がそれを使って今回のような口頭発表を行う形式が良い。もはやポスターと口頭とあえて分ける必要はない。」、「秋はオンライン、春は会場で、というように、2回のうち1回は現地開催ができれば理想的」(内容重複により割愛しますが、今後も年一回はオンラインが良いという意見が多数ありました。現地開催の時期は秋がよいというのが多数。春についてはJpGUがあるからと理由を挙げる方もいました。秋のみとする場合について関東開催をある程度まぜてはという意見も)、「オンラインであれば、海外からの参加も気軽にできる点が大きな利点だと思います。またリアルのように会場を飛び回らずに済み、望んだ発表をすべて視聴できる点もよいです」、「(オンラインのメリットはあるが)学会運営側の負担が大きくなるのではというところが気になるところです」、「あまり早期に対面開催へ戻す必要はないと思います。対面とハイブリッドも合理的とは思えません」、「会場開催ができるようになったのちも、シンポジウムや受賞講演だけでもオンライン聴講できると嬉しい」、「研究者以外も参加しやすい日程と参加費を検討して頂きたい」、「現地開催が復活してもオンラインを併設して欲しい」(内容重複により割愛しますが、同様な意見が多数ありました)、「本業がサラリーマンの私には、時間にとらわれずに多くの方の発表資料を拝見することができて非常にありがたかった。コロナが収束した後でも、オンラインも併用することを希望します」、「オンライン開催のメリットも感じられた一方、従来通りの開催にも、休憩時間中の雑談や懇親会など、会員間の交流機会の点でメリットはある」、「できれば、現地開催が良いですが、オンラインでの開催も問題なくできることが分かりましたので、臨機応変に開催していただければ」、「対面形式の会合は立ち話や就職活動など、研究に関する議論以外の部分で有効だと思いますので、全てをオンラインで実施することはよろしくないのではと思います」、「狭い会場でのポスターはやめて、オンラインのオンデマンド資料開催のみでも良いと思う」、「弊社のネットワークではGoogle DriveやDocumentsはセキュリティ設定の関係で見ることができません」、「全てのセッションではなくてもよいと思いますが、実会場をもちながらそれをオンラインでも見せられれば参加の難しかった人も参加できるようになるかと思いました」、「会場費をかけないで、大会を開催できるので、学会の財政には良いのではないか」、「オンライン開催により会場費などどれくらい経費削減できたのか明らかにしてほしい。省力運営が達成されたのであれば、今後も積極的にオンライン開催を推進してほしい」、「コロナの状況次第だと思いますが、講演会やシンポジウムはどうなるのでしょうか」、「学会は学生さんが人前で発表する機会を提供するという側面もあるので、今後も全てオンラインにするという運営方法には反対」、「オンライン化を定着させることなく、早く元の会場で対面での形式に戻すべきだ。特に若い研究者の人達のコミュニケーションのためには必要不可欠。合わせてライブ配信により、当日会場に行けない人への配慮もあっていいと思う」、「ある発表の発表者と聴講者ではなく、ある発表の聴講者どうしの交流をどうするか?という課題が、気象学会だけでなくオンライン学会全体にあると思う」、「オンライン大会はつまらない。懇親会や祝賀会の無い大会はつまらない。コロナ禍が過ぎ去ったら元の姿に戻ってほしい。とはいえオンラインの便利な点もあるので、将来的にはハイブリッドな大会になっていくべき」、「リモート参加には、複数会場を移動しやすいなど、それなりの利点もあったと感じます。現地開催が復活しても、今回の形式(資料をアップロード、コメント書き込み)も併設できると良いです」、「コロナ禍が落ち着いたら、オンラインとオンサイトのハイブリッドでの学会開催を検討いただきたい」、「来春の学会についても検討されていると思うが、早めに原案を出して会員の間で議論できるようにしてほしい」、「現地開催でもネットを使って、行かなくても聴講できるとうれしい」、「オ

ンライン全般に言えることですが、初めて大会に参加する学生などの方々は、大会の恩恵（先生や先輩を通じた新たな出会いなど）を受けにくいように感じました。修士に入って、博士に行くか働くか考える時期に、春季大会の中止、秋季大会のオンライン開催は、通常の大会で生まれていた新しい出会いが1年にわたり出来にくい状況になってしまったと感じています。休憩場や雑談部屋もありましたが、学生にとっては（研究者にとっても）敷居が高いという意見もありました。…オンラインで行う場合、交流しやすい環境をしっかりと考える必要があると思います」、「コロナ終息後も、ハイブリッドで開催できれば、旅費のない学生や海外在住の日本人研究者など様々な人達が参加できるのではと思いました」、「オンライン学会という形態は、気象学会の将来の発展を左右するものかもしれません。…（様々な立場の方が）自分の都合に合わせて発表を視聴できるのは大きなメリットです」、「コロナが収束したら大会を元方式に戻してください」、「スライド形式の資料を直前にアップロードするのであれば、予稿は不要…簡単な要旨のみでの参加申し込みを可能にすれば参加者増に繋がるのではないか」、「オフライン開催に戻った際もウェブ上で発表資料を見れるシステムがあると良い」、「今回のリモート大会の様式を維持してほしい」、「今後はオンデマンド通りの意味で、学会の画面上で参加者がいつでも「動画的に」発表を聞ける状態を作してほしい」、「運営は大変かもしれませんが、例えばポスター発表はオンデマンドとし、口頭発表は現地開催とのハイブリッド開催あたりを検討ください。直接会えないデメリットを強く感じています」、「オンライン大会としてはかなりよかったが、やっぱり会場でやっているんな方と会ったり交流したりしたい」、「ポストコロナでは、春をオンライン only、秋を対面 only にして、秋は関東も含めて6カ所で回すということもありかな。と思いました。ハイブリッド開催は主催者の負担が大変そうです」。